

技術・家庭科現状の分析と授業改善プラン

技術・家庭科における平成29年度改善プランの検証

- ・技術・家庭科ともに実践的、体験的な教材を授業に取り入れた。生徒は楽しみながら授業でものづくりの意義、必要性について学び、作品を完成させることで多くの生徒が達成感や喜びを感じることができた。
- ・技術と社会との関わりなどを学ぶ場面づくりを行った結果、生徒は自分の学んでいる知識がどのように利用されているかを具体的に感じる事ができ、意欲が高まった。しかし食品やエネルギー、生物育成の領域は関心が低いため、今後も学んでいる知識と社会との関わりを重視し、ていねいに指導する必要性を感じた。

技術・家庭科における内容別結果の分析

- ・技術分野では作品を完成させることには積極的であるが、材料の性質を考えて活用することや、工具を正しく使い正確に作ることへ配慮できない生徒もいる。また、自分で考えて作品を工夫することを苦手とする生徒もいる。
- ・家庭分野では、生活の自立に必要な基礎的・基本的な技能と知識に関する、家庭内における経験が少ない。特に調理・裁縫といった家事の経験が少なく、それに使用する道具や機械を正しく使用することができない生徒が多い。
- ・工作機械、ミシン、アイロン、調理器具等の機械を適切に扱うことができる生徒が少なく、仕組みの理解、動力伝達や保守・点検の知識にやや不足している。

技術・家庭科観点別結果の分析

< 関心・意欲・態度 >	・授業の決まりを守り、意欲的に取り組む生徒が多く、落ち着いた授業となっている。
< 創意工夫 >	・生活に役立たせる工夫を考える力は定着しつつあるが、技術と社会の関わりを考える力が不足している。
< 技能 >	・意欲的に作業に取り組む生徒が多い。生徒同士で協力する場面も見られる。鋸などの工具、ミシンなどの機械の扱いが不慣れな生徒が多い。
< 知識・理解 >	・基礎的な内容が定着している生徒が増えつつあるが、教科として必要な専門的な知識について不足している。

技術・家庭科の授業改善のポイント

- ・技術分野では、作品の製作を通して、使用条件、プラン、製作手順、チェックなどの課程を効率よく行うための思考力について指導する。
- ・生活に役立たせる工夫を考える力をつけさせ、より実用的な工夫ができるような指導を行う。
- ・技術分野では、学習内容を社会で活かすための計画を考えさせたり話し合いをさせたりすることで、技術を活用しようとする意欲を高める。
- ・家庭分野では、衣食住や家族の生活について関心を持ち、基礎的・基本的な技能を身につけ、進んで活用する指導をすすめる。
- ・知識を身につける意欲を高めるために、その知識が生活や社会にどのように役立つかを示すことを重視する。

技術・家庭科授業改善策

- 技術・家庭科分野では、プロジェクターや書画カメラなどの I T C を活用して、細かい作業を視覚的に見せることで、作業工程や注意事項の理解を深めていく。
- 技術分野では、エネルギー及びものづくりについて重点的に指導し、しくみだけではなく実際の社会でどのように技術が利用されているか等についても学ばせる。
- 家庭分野では、自らの生活をふり返り実習、調べ学習などを通して実生活で実践しようとする授業を進める。
- 知識を身につける意欲を高めるために、学習内容が実際の社会ではどのような仕事に活かされているか、身の回りのどの製品に利用されているかを示し具体性を高める授業を進める。また、定着を図るために、学習内容を実習などで実際に使用し、体を動かして経験させる授業を進める。
- 作品の製作を最後までやりとげられるよう、机間指導などを通して支援を重視していく。また、機械のしくみや点検方法について学ばせ、様々な作業を安全に行うための知識を身につけさせる。